

国際性と発信力を評価しています。

なお、この謙澄の翻訳は明治二十七（1894）年になって丸屋（丸善）書店から「英文日本文庫」シリーズの第2巻として出版されました。当時の貧弱な学術情報の流通事情から、『源氏物語』が12年も前にイギリスで出版されていたことを初めて知った日本人は多く、その時彼らは大きな感動を覚えたことと思われま

■幅広い翻訳作品

さて、ケンブリッジ大学で学業を終えた謙澄は明治十九（1886）年に文部省参事官として帰国していますが、イギリス滞在中に『源氏物語』の英訳だけでなく、英文での義経再興の記『成吉思汗』の刊行や英詩の邦訳を手がけていた文化力を背景に、演劇の改良運動を推進して天覧歌舞伎の成功へと導きます。この運動の推進母体には時の総理である伊藤博文も名を連ねていました。こうした活動の結果もあって、明治二十一（1888）年の学位制度の発足で、謙澄は南条文夫らと共にわが国初の文学博士号を得ることになります。また、この年から明治二十三（1890）年にかけて、バーサ M. クレー（Bertha M. Clay, 1836-1884）の小説“Dora Thorne”を『谷間の姫百合』として邦訳しています。

■官吏・学者・政治家・外交官として

帰国後も伊藤からの評価は高かったようで、明治憲法が発布された明治二十二（1889）年に謙澄は伊藤の次女生子と結婚しました。当時、内務省へ移り県治局長になっていた謙澄は、福岡県の門司港の開発に力を注ぎます。そして、翌二十三（1890）年の第1回衆議院議員選挙に福岡の選挙区から出馬して当選し、政治家の道へ入りました。その後も2回の当選を重ね、この間、第二次伊藤内閣の法制局長官を務めています。明治二十八（1895）年には男爵となり

翌年には貴族院議員に選ばれます。明治三十（1897）年になると、幕末長州の旧敵豊前の出身ながら毛利家編輯所総裁として防州と長州の歴史書『防長回天史』の編纂を主導します。その後は第三次伊藤内閣の通信大臣、四次内閣の内務大臣を歴任しました。また、明治三十七（1904）年から翌年にかけてイギリス駐在官として、日露戦争に伴う黄色人種脅威論、所謂、黄禍論の対策担当者を務め、帰国して枢密顧問官に就任しました。明治四十（1907）年には子爵を拝命して学士院会員にもなり、大正五（1916）年に法学博士号を授与されました。

このように、謙澄は岳父伊藤からの引き立てを受けながら栄達の道を歩みましたが、彼の成功の基盤には高橋是清直伝の英語があり、恐らくイギリス留学の経験を持つ伊藤も驚くほどの実力を備えていたと考えられます。そこに新聞記者で鍛えた感性と、当時の「一等国」であり、伝統や文化を重んじる国イギリスで日本の古典『源氏物語』を堂々と発表できる程の知識と教養、さらには黄禍論対策で見せた対外交渉能力や広報活動での卓越した手腕などが、近代化と国際化を希求していた明治の社会環境と結び付いたのではないのでしょうか。

こうした彼の力量ゆえ、『源氏物語』の翻訳が明治政府の国策と絡んでいたとする推測もありますが、未だ解明されるまでには至っていません。

いずれにしても、末松謙澄という人物は記念すべき「明治百五十年」の到来を前にして、現代を生きる私たちの記憶の中に強く留めておきたい国際人なのです。

----- 主な参考文献と脚注

- (1) 玉江彦太郎著『若き日の末松謙澄』海鳥社 1992年。110頁。
- (2) 前掲書109-110頁。
- (3) 金子厚男著『末松謙澄と「防長回天史」』青潮社 1980年。39頁。

おく まさよし（司書・図書館事務長）